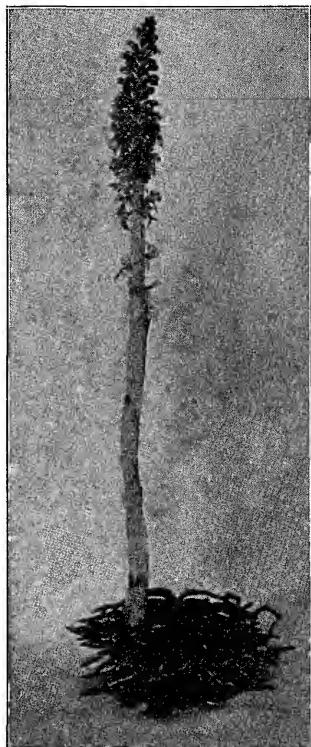


ながばえびゅ (Potamogeton praelongus WULF.) ハ北海道ニ知ルテキマスガ、信州輕井澤ノ小川ノ中ニ自生シ
テキマス

おばんねり (Fraxinus borealis NAKAI) オビヤヘキ (Osmunda Claytoniana L.) ドリヘキハシヘキ (Elae-

agnus nikkoensis NAKAI) ドリヘキ



さかねらん

(Neottia nidus-avis Rich.)

昭和四年五月廿六日信州輕井澤

ニテ採集撮影

うしめせ (Lespedeza nikkoensis
NAKAI) オカネラン (Neottia nidus-avis Rich.) ハ共ニ信州輕井澤附

近ニ産シマス

ほそばかららん (Clematis subtrilobata NAKAI var.

tenuifolia NAKAI) ハ樺太突岬山ニ

アリヤベ

ありすがはせきしき (Acorus pusillus STEB.) ハ伊豆淨蓮ノ瀧近クニ自生シテキマス

○富嶽ノ北麓河口村ニ遊グ

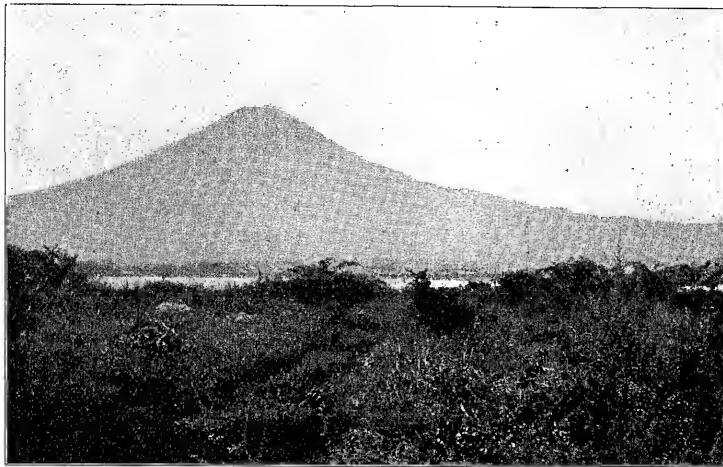
神奈川縣立工業學校

大 谷

茂

昭和六年八月十日ヨリ十七日ニ至ル一週日ヲ知人ノ招キニ應ジテ山梨縣南都留郡河口村ニ遊ンダ、ソノ昔甲府ヨリノ鎌倉往還三樞驛ノ一ト謂ハレシ雍刀ノ宿、今ハ一寒村トハイヘ風光絶佳ナル河口湖ト富士ノ靈峰ニ接スル岳麓ノ美、生彩アル美術品、コノ靜ナル夏ノ村ニハ山ヲ愛スル人士ノ足ヲ逗ムルニ至ッタ、山ニ住ム人、人

富嶽ノ北麓河口村ニ遊ブ



河口村ヨリ富士山ヲ望ム、前面ニ横ニ白ク見ユルハ河口湖（大谷茂撮影）

ト人トニ愛ガアル、山マタ山ト心ヨキ案内ノモトニ行ク行ク語ラ
レシ土言並ニ其ノ利用ヲ書キツヅリシモノヲソノママ紹介シタイ
ト思フ、（一）内ノモノハ普通ノ和名デアル

あかごみし（てうせんごみし——もくれん科）
くろごみし（まつぶさ——もくれん科）

ごみしヲ又ごむしト呼ブ之ヲ（主トシテ果實）鎮咳即チ咳止メニ
ス、試ミニ兩者ノ區別ヲ土人ニ問ヒシニ曰ク、あかごみしハ果
實ハ球形、熟シテ赤色ニナリ果實ノ總小サク且ツ總ノ中ニ必ず
不發育ノ果實交ハルタメ大小ノ果實穗ヲナス、又コノ蔓ハ細イ
くろごみしハ橢圓形ノ果實デ熟シテ黒紫色果實ノ總大キク且ツ
皆ヨク發育シ不發育ノモノヲ見ズ、又蔓ハ非常ニ太クナリ徑一
寸五分位ニ達スト

利用ニ際シテハあかごみしノ方效力多シ又根モ煎用ス

さいき（えぞにう——繖形科）

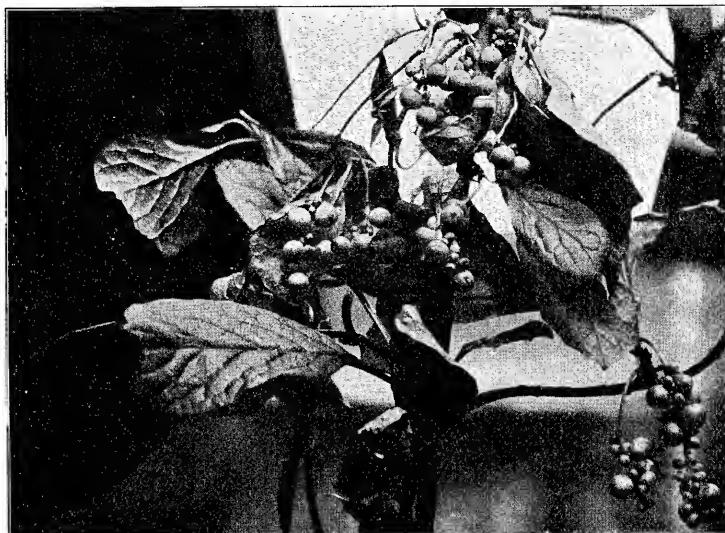
地上ノ部分ヲ肥料ニシ根ハ浴湯ニ入ルレバ身體ヲヨク温メル

（二株位入レル）

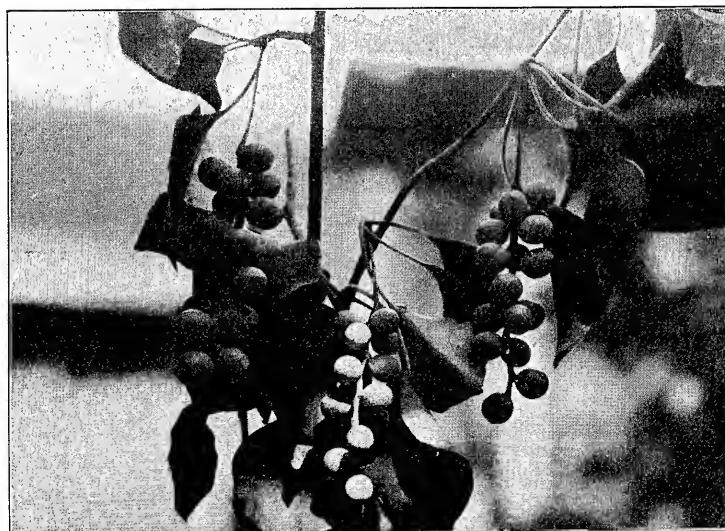
わくのて（大わく（せんにんさう——うまのあしがた科）
小わく（ほんしやうづる——うまのあしがた科）

みみんだれ（たけにぐさ——けし科）

富嶽ノ北麓河口村ニ遊ブ



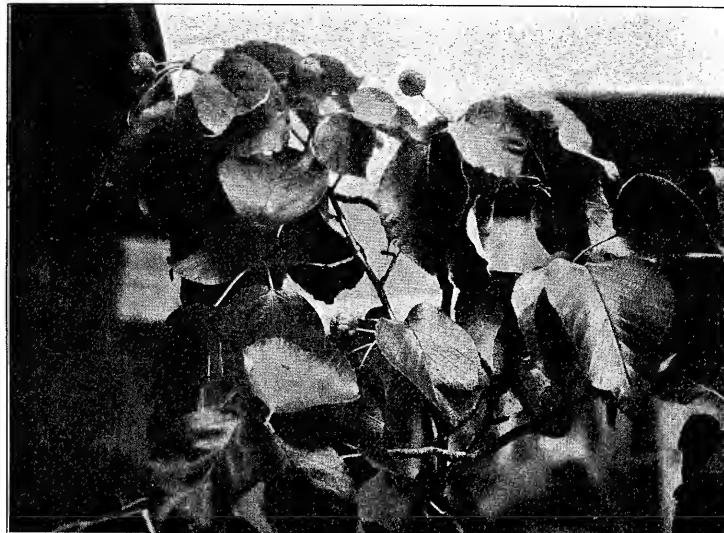
てうせんごみし (*Schizandra chinensis* BAILL.) (大谷茂撮影)



まつぶさ (*Schizandra nigra* MAXIM.) (大谷茂撮影)

わくのてト
みみんだれ
ヲ餌殺シノ
目的ノタメ
便所ニ入レ
ル、わくの
ノ手(絡車)
フ具即チ蠶
てハ絲ヲ絡
ニ葉柄ノ出
ル處ガ似テ
居ルタメ、
ヨリ出ル粘
液ニタト
ハ褐色汁ヲ
耳ノ耵聛腺
ナラン
ヘ云フモノ

富嶽ノ北麓河口村ニ遊ブ

やまなし (*Malus Tschonoskii* SCHNEID.) (大谷茂撮影)

おひめうら (ひがんばな——ひがんばな科)

コノ球ヲ大根卸シデスツテ餌粉ト混ジテ皮膚ニ塗リ散シ薬トナス又解熱ニモ用フ

なんばん (たうがらし——なす科)

だづま (まつむしさう——まつむしさう科)

なべわれ (どくうつぎ——どくうつぎ科)

よすず (がまづみ——すひかづつ科)

ひかげよすず (こばのがまづみ——すひかづら科)

よすずハ食用ニスレドモひかげよすずハ食用ニセズ

はちだめ (はしばみ——かばのき科)

はしばみノコトヲ女はちだめト云ヒツのはしばみヲ男は
ちだめト稱シドチラモ果實ヲ食用ニス

わうれん (たちてんもんどう——ゆり科)

之ヲ牛馬ニ與ヘルト有毒ナリト云フ

たも (のらうつぎ——ゆきのした科)

はこぼれ (あやめ——あやめ科)

之ヲ嚙ムト歯ガニボレルカラト (有毒ナリ)

にしつこり (ふじいばら——いばら科)

ところ (島にどころ——やまのいも科)

土人詠ンデ曰ク「荒レ烟ノところどころニ出ルところ」

いたんどり（いたどり——たで科）

えんどり（をやまぼくち——さく科）
此ノ葉ヲ端午節句（コノ地方デハ六月五日）ニ餅ニ入レテ草餅ヲ作ル、六月ニハよもぎ既ニナキ爲之ヲ用フ
ルモノラシイ、よもぎ程色ハ着カヌガ味ハよもぎヨリモ美ナリト

けばいちご又ふさいちご（えびがらいちご——いばら科）

神奈川縣津久井郡青根村デハあほばらいちごト稱ス

さはぐり（ふさざくら——やまぐるま科）

しろぶな（いねぶな——殼斗科）

くろぶな（ぶな——殼斗科）

いはづさ（だんかうばい——くすのき科）

づさ（あづらちゃん——くすのき科）

かたそぎ（まんさく——まんさく科）

めめぞき（つりばな——にしきぎ科）

コノ地方デ春最早クホホケル（芽ヲ出ス）モノハ是レナリト

れーてんぶだう（みやまたたび——さるなし科）

果實ガ、レーテン秤（コノ地方デ稱ス）ノ分銅ニ似テ居ル所ヨリコノ土言アリ、霜ノ降ル頃之ヲ食用ニス種子極メテ小サク其ノ味覺ハ正ニ無花果ヲ食スルガ如シト、熟シテモ帶白綠色ノモノ、若シ未熟ノモノヲ試食センカ舌ハ荒レテ三個位ニシテ舌ヨリ出血スト

あはぶく (あはぶく——あをかづら科)

わたふぢ又ハうめぼとけ (つるうめもどき——にしきざき科)
さるすべり (なつづばき——つばき科)

コノ地方ニハ真ノさるすべりハ無クコノなつづばきガ樹皮ヨクさるすべりニ似タルヨリ云フモノナラン

ふぢき (こばのとねりこ——ひひらぎ科)

よぐそざくら (うはみづざくら——いばら科)

樹皮非常ニ臭キタメ土言出づ

くそずみ (なはしろぐみ——ぐみ科)

果實少シク長ミガアリたはらずみトモ稱シコノ木ヲ燃ヤセバ其ノ惡臭ヤ十間位離レテモ鼻持チナラヌト、果實ハ食用ニス

かつのき (ぬるで——うるし科)

かつのきハ種々ニ利用サル、所ノモノナリ、雪ニトザサレタ正月ノ村 (正月ハ二月行フ) ニハ土人ノ樂ミトシテ色々ノ行事ガ行ハレルガソノ際ヨクコノかつのきガ利用サレテキル、破魔弓 (正月十七日) ノ弓、又鬼打棒 (正月十四日) ト稱シ家ノ門口ニ立ツル棒、コノ爲ニ又ノ名ヲあかざりトモ稱ス、又正月十五日ノ朝ノ粥ヲ食ベル箸ヲ作ル、コノ箸ヲ太箸ト稱シ「フトハシャ小サク見ユルヨメ (姫) ノ口」トハ一笑、又オゴソカニ神前デ行ハル、御筒粥ノ行事 (十四日夜) ニハかつのきヲ燃ヤシテ粥ヲ炊クナリト

こめごめ (みつばうつぎ——みつばうつぎ科)

大ばらのき (はりざり——うござ科)

はまなし (こけもも——しゃくなげ科)



すみ (Malus Toringo SIEB.) (大谷茂撮影)

ころり (ぎばうし——ゆり科)

コノ葉柄ヲ食用ニス、神奈川縣都筑郡田奈村恩田デハ之ヲごろすけっぱ(ごろすけ)みみづく、ごろすけっぱ(みみづくノ葉)ト云フ
やまつか又ハだんごばら(やまぼうし—さんしゆ科)
やまつかハやまぐわヨリ起ル、だんごばらハ團子ヲサスヨリ起ル、即チコノ地デハ正月十三日コノ枝ニ團子ヲサス、昔ハ多ク作ルコトヲ競ヒ一俵位ノ團子ヲサシタルナリト

かうやすみ (すみ——いばら科)

果實ハ綠—黃—紅ト順次ニ變ハリ之ヲ食用ニス其ノ味甘シブクシテ味噌ノ様ニネットリトス

やまふさぎ又やぶふさぎ又やまあぢさゐ (たまあぢさゐ—ゆきのした科)

どろやなぎ (やまならし——やなぎ科)

ゑんじ (いぬゑんじゅ——まめ科)
コノ材ヲ大工ノちよくな柄ニシ又心材ハ黒クテ黒柿ノ

如キタメ床柱ニ用フ

あはばな (をみなへし——をみなへし科)

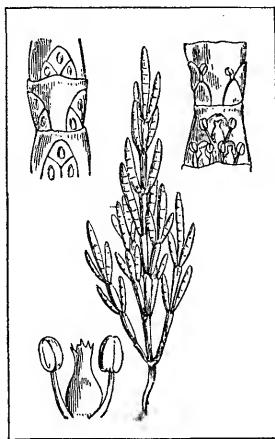
十五夜ばな (しをん——あく科)

舊八月ノ十五夜ニハ必ズ開花スルヨリ土言起ル、土人ハ之ヲ好ンデ庭ニ植ウルハ雷ヲヨケル爲ナリトコノ他ニ自然物ヲ利用スルコト多キモ此レ等ノ植物ハ土言ト和名ト一致セルニヨリ此處ニハ省ク事トシタ此處ニ掲ゲタ植物ノ寫真ハ全部河口村附近ノ山ニテ撮影シタモノデアル

○あっけしさうノ新産地ヲ報ズ

北海道室蘭市武揚小學校 岩 本 秀 信

一 緒 言



あっけしさう
(*Salicornia herbacea* L.)
(BENTHAM)

あっけしさう (*Salicornia herbacea* L.—あかざ科) ノ分布ニ就テハ嘗テ本誌第四卷一號ノ口繪ノ牧野先生ノ記事ヲ讀ンデ第五卷七號ニ北見國サロマ湖ノ新産地ヲ報告シテ以來寡聞ナル私ハ未ダ其レ以外ニ產地ヲ知ラナカツタ、然ルニ昭和六年ノ夏圖ラズモ北見デ復新產地ニ逢ヒ、同年秋樺太旅行ノ際同地ニモ產スルコトヲ聞テ是ハ本誌ニ載セテ戴ク必要ガアラウト拙文ヲ認タメタ次第デアル

二 發見ノ動機

昭和六年一月五日折カラノ猛烈ナ北國ノ吹雪ヲ衝イテ用事ノタメ遙ノ北見網走郡網走町字キナチャシナイ、ト云フ能取湖(ノトロ湖)畔ノ一部落ニ岩本石松ナル叔父ヲ訪レタ、其ノ時ノ談話ニ能取湖畔ニ頗ル奇妙ナル草ガ生エル、葉モナケレバ花モ見エナイ、ソウシテ秋ニナルト真赤ニナル、村人ノ一部ハ之ヲ石油草(セミユガラ)ト呼ンデキル、其ノ理由ハ嘗テ